

Happy もろふく

～みんなでHappyな学校を創ろう～



令和8年3月完成予定 学校施設 長寿命化改良工事

令和7年11月28日（金）

石橋 佳之

大東市立諸福小学校長

令和7年度 諸福小学校の教育

R7.6.10 学校運営協議会

(1) 子どもの悲鳴！

18歳意識調査 第46回「国や社会に対する意識」(6カ国調査)
(2022年1月26日(水)～2月8日(火) 日本財団)

(単位：%)	自分には人に 誇れる個性がある	自分は他人から 必要とされている	日々の生活が 楽しい	日々の生活で 不安やゆううつを 感じる	勉強、仕事、 趣味など、 何か夢中になれる ことがある	自分のしている ことには、目的や 意味がある	自分の人生に は、目標や 方向性がある	目標を立て、 何かを達成した 経験がある
日本	47.9 6位	52.7 6位	67.7 5位	65.3 1位	80.4 6位	63.5 6位	60.6 6位	75.2 5位
アメリカ	74.0	67.7	69.0	58.0	81.5	70.0	75.2	76.8
イギリス	72.2	64.6	63.4	56.7	82.7	67.8	73.6	73.4
中国	74.2	77.3 1位	79.5 1位	46.2	82.4	82.6 1位	81.3	78.1
韓国	68.9	73.7	76.1	49.0	83.9	79.9	74.5	84.5 1位
インド	84.0 1位	59.6	78.4	35.1	88.8 1位	80.1	88.2 1位	79.2

自己肯定感の低い若者

日本は「自分には人に誇れる個性がある」「自分は他人から必要とされている」「勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある」「自分のしていることには、目的や意味がある」「自分の人生には、目標や方向性がある」で**6カ国中最下位**となった。
また、日本は「**日々の生活で不安やゆううつを感じる**」が**65.3%**で、**6カ国中最も多い**。

(単位：%)	将来の夢を 持っている	自分の将来が 楽しみである	社会が今後どのよう に変化するかに 楽しみである	多少のリスクが伴っ ても、新しいことに 沢山挑戦したい	多少のリスクが伴っ ても、高い目標を 達成したい	リスクのある挑戦よ りも、経済的安定を 重視する	リスクのある挑戦よ りも、心理的安定を 重視する
日本	59.6 6位	57.8 6位	54.0 6位	49.0 6位	44.9 6位	70.4 6位	68.3 6位
アメリカ	82.1	79.0	75.6	77.0	79.2	76.5	74.5
イギリス	78.3	75.7	71.1	78.1	81.4	72.6	71.7
中国	84.7	86.9	85.6	79.8	78.8	78.7 1位	78.1 1位
韓国	81.5	77.6	73.3	63.6	67.7	76.6	76.7
インド	93.3 1位	90.6 1位	88.5 1位	84.1 1位	87.6 1位	71.2	70.9

教育は、学校は、
このままでいいのか??

自身と社会の関わりについて、以下の全ての項目で日本は6カ国中最下位となった。特に「**自分は大人だと思う**」「**自分の行動で、国や社会を変えられると思う**」がそれぞれ3割に満たず、他の国に差をつけて低い。

(2) 教育も変わらないと！

これまでと時代や産業構造が大きく異なり、求められる力、思考・発想も変わっています

○大量生産・大量消費

→新しい価値創造

○確実性→革新性

・確実性

注意深さ・ミスのないこと

責任感・まじめさ

基本機能（読み・書き・計算など）

・革新性

常識や前提にとらわれず、ゼロ

からイチを生み出すチカラ

「問題発見力」「課題解決力」

「革新性」

教室には多様な子どもが集まっています

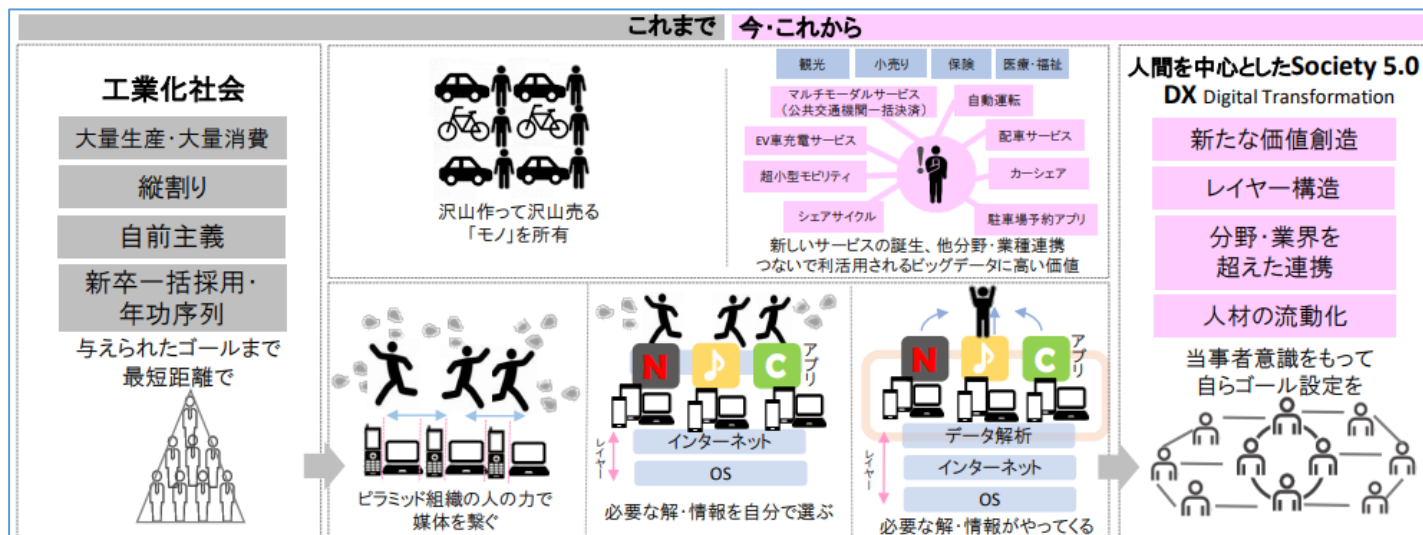
「同じペースで 同じことを

同じ方法で」の教育は限界

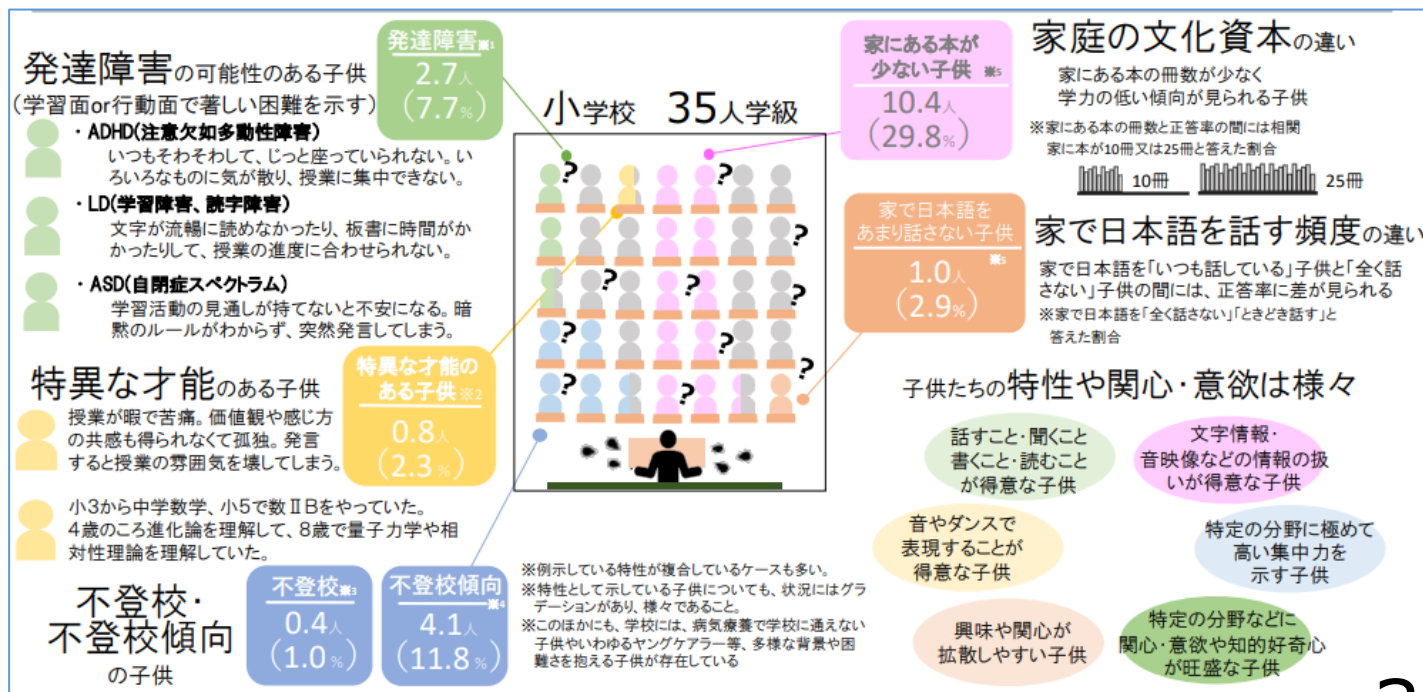
一人ひとりみんな違う多様な子ども
旧来型の紙や黒板を使った一方的な
一斉授業「みんな同じペースで、同じ
ことを、同じ方法で」やっていくことには
限界がある。

今、変わらないと！

社会構造の変化・必要となる思考・発想の変化



認識すべき教室の中にある多様性・子供目線の重要性



(3) 子どもを主語の、子ども主体の学校にしよう！

今までは…

主語は教師
「見える学力」重視
自主的に行動する子ども
「静」の授業
指示・号令・命令
いかに教えるか
学級経営力
前例踏襲
同調圧力

これからは…

主語は子ども
「見えない学力重視」
主体的に行動する子ども
「動」の授業
問いかけ
いかに学ぶか
チーム力
創造
違っていることが当たり前

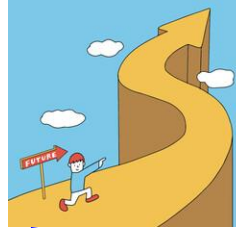
子ども主体の
教育活動

今あるものを問い返す 本当に子ども主体といえるのか

学級担任制、校則、学習規律、スタンダード、授業参観、見せる学校行事、宿題、定例会議、研究授業、家庭訪問…

2025 大東市立諸福小学校 学校経営計画

学校の教育目標



向かう

自ら向かう 仲間と向かう 未来に向かう

自立 共生

創造

経営理念

経営方針

子どもは一人一人違う！
すべての子どもは有能な学び手！

子どもに「委ねる」

「揃える」から「伸ばす」へ

子どもを主語 子ども主体の学校

主体的に行動する子ども、自ら社会を創る

子どもに関わる大人ー教師、保護者、地域の方
当事者意識 思いを一つに ともに向かう

「しられるな！」「やってみなきゃ、わからない」

○目的やねらい 活動の本質に向かう 何のために行っているのか？

今までこうだった、は続ける理由に当たらない 慣例?? 伝統??

○時代は動いている 社会の変化に対応する

前例踏襲からの脱却、変わることを恐れない、変化を楽しむ ワクワク



自分の学びは自分が創る

子どもに「委ねる」学び

自分のペースで、自分の方法で、自ら学びを創る

・子どもが進め方や内容、方法を選択

自由進度学習、「学び合い」、『学び合い』...

・一律一斉の宿題から自分の学びを自分が選択・計画

□「委ねる」学びを全員実施 1 単元 100%

□家庭での30分以上の学習 5・6年ー70%

自分の生活は自分が創る

子どもに「委ねる」特別活動

児童が主体となって自ら動かす児童会活動

・児童の計画・運営による児童集会、委員会活動

運動会、遠足等の実行委員による企画運営

・学校の取組を創り出す代表委員会 議決全校取組

□代表委員会での全校めあて作成 2学期より実施

□代表委員会でのルールメイキング 3項目以上

だれもが「安心・安全」

子どもの居場所

・「ほっとルーム」の環境整備・支援体制

・校外フリースクールの創出 校外居場所

・オンライン不登校支援 メンバー等

□不登校児童 35人/千人 20人

R5-50人/千人 R6-47人/千人

□学びへのアクセス 100%

具体的方途

みんなで創る みんなの学校「地域の子ども」

社会に開かれた教育課程「学校と地域の連携・協働」

地域や保護者、外部団体との積極的連携 □地域・外部との連携授業 3本

・地域・保護者の学校教育への参画

□ふれあいフェスタ、クリーン&ジョイフル

・地域が主体となる「地域教育協議会」

地域の企画・運営

新しい働き方「Smart & Fun！」

働き方は「モーレツ」から「コーリツ」へ 教育は無限、教員は有限

何のために行うのか 本質を問う

□20時以降の勤務 ゼロに

・週1回の一斉退庁日設定 水18時

□放課後16時以降の会議 ゼロ

・放課後の時間確保 時程見直し

1 学期の成果

自ら向かう・自立

課題の解決や目標の達成に向けて、
自らすすんで考え、取り組んでいる



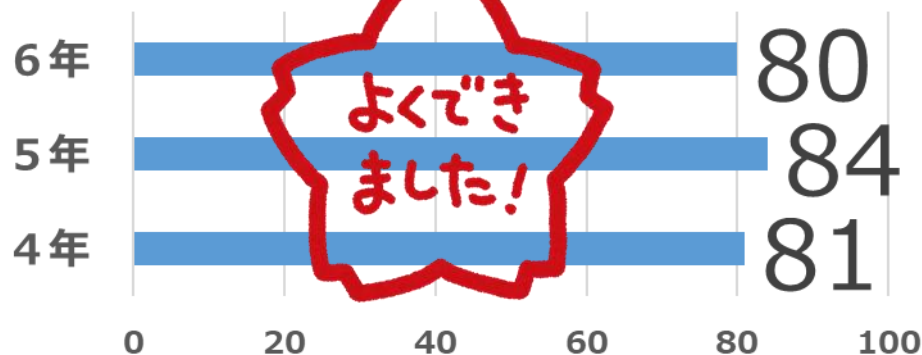
仲間と向かう・共生

友だちとの考えの交流では、
新たな考えや疑問をもつことができる



未来に向かう ・創造

授業で学んだことを、次の学習や
他の教科の学習で役立てている

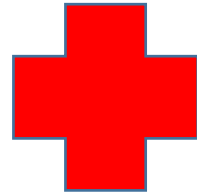


2 学期始業式

自分の学びは自分が創る

今までは…

これからは…



みんないっしょに
同じことを
同じ方法で

自分のペースで自分で学ぶ
学び合って、助け合って
ともに学ぶ

2 学期全校でめざすこと

自分の学びを自分で進める

自分のペースで、方法で
仲間と一緒に学びを進める
学び合って、助け合って

主役は君たち

自分の学びは自分が創る



1年算数

自分で問題プリントを選択



友だちと学び合い



自分で答え合わせ

自分の学びは自分が創る

2年算数

仲間と一緒に学びを進める
学び合って、助け合って

自分の学びは自分が創る



長寿命化改良工事 令和8年3月完成予定



1 「School for the Future」 新しい時代の学びを実現する諸福小長寿命化改良工事

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

(令和4年3月学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議)

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

Schools for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

「未来思考」の視点

- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという**固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す**。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ② 教室環境について、**単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）**をもつ。
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、**画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）**をもつ。
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、**関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する**。

既存校舎の価値と安全性を最大化し、主体的な学びを引き出す持続可能な学校づくり

1階中庭には、既存建物と連続する「ラーニングリビング」を増築することで、**学校の中心となるリビング空間を形成**するとともに、中庭の利用率を高め、拠点性を向上させる。これまでの校舎にはない広さとながりをを持った空間が、多様な個性の開花を導く、**自ら学びを楽しめる教育環境**となるだろう。ラーニングリビングの曲面を描く天井は、1階から屋上に至る緩やかな風の流れを生み、自然で効率的な換気システムを形成する。

大胆な増築と既存校舎の価値と安全性を最大化する長寿命化手法により、**主体的な学びを引き出す持続可能な学校づくり**を目指す。
(青木茂建築工房HPより)



読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



学習活動に柔軟に対応できる多目的な空間



2 「School for the Future」 新しい時代の学びを実現する「子どもに委ねる学び」の研究

子どもを主語に 子ども主体の学校
主体的に行動する子ども、自ら社会を創る

自ら向かう 仲間と向かう 未来に向かう
主体性、当事者意識をもった子どもが育つ

大人の指示・命令を待つ子ども
待てば誰かがやってくれる
先生が教えてくれる

**お客様状態
受け身から
の脱却**

**自分の学びは自分が創る
子どもに「委ねる」学びの創造**

**「委ねる」学び、自由進度学習等 一手段
主体性、当事者意識をもった子ども一目的**

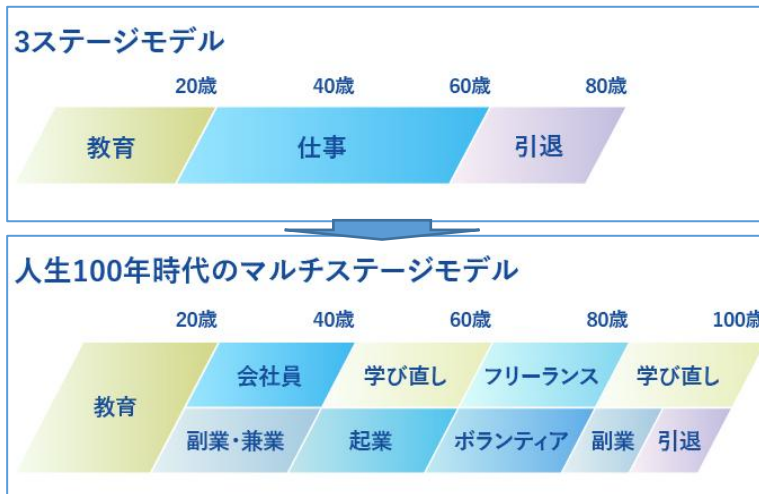
「委ねる」学びで子どもが身に付ける力

- ・自分で計画を立てて、学習を進めていく力
- ・挑戦することを楽しむ力
- ・困ったときにどうすればいいか考える力
- ・自分の学びを正しく振り返る力
- ・最後までねばり強く学習を進める力

百聞は一見に如かず 研修に参加を！

- NAGOYA Compass DAY 2025
DAY1 9/16 矢田小・山吹小 **自由進度の公開**
DAY2 10/28 山吹小・橘小
- 天童市立天童中部小 11/17 公開研究会
- 廿日市市立宮園小 9/25-10/6 視察週間
10/10 10/17 自由進度体験研修
- 東浦町立緒川小 ①10/10 ②2/3

人生100年時代 3ステージからマルチステージへ



これからの激動
の時代を生き
る子どもたち

時代に合わせて
スキルをアップ
デート、新しいス
キルを身に付ける
ことが必要

「委ねる」学びにおいて、自己決定・選択の場を設定する
自己決定・選択の学習環境設定の例

- ◆ **テーマ選択**—個々の興味・関心に応じて取り組むテーマを選択
- ◆ **学ぶ順番選択**—系統性をあまり気にしないでいい学びの場面
- ◆ **学ぶ進度選択**—進む順番はあらかじめ決められていて、進むペースを自分で選択
- ◆ **難易度選択**—ヒントの難易度が調整されたワークシートやヒントカードを選択
- ◆ **ツール選択**—ICTか、紙か、ホワイトボードか、具体物かなど
- ◆ **タイミング選択**—ヒントや参考資料に触れるタイミング
- ◆ **協働相手の選択**—一人でやるのか、人とやるのか、先生とやるのか、自然の流れで協働してやるのかなど
- ◆ **空間の選択**—教室のほか、学年の多目的室や図書館など、学ぶ空間を選択

「委ねる」学びで子どもが身に付ける力

- ・自分で計画を立てて、学習を進めていく力
- ・挑戦することを楽しむ力
- ・困ったときにどうすればいいか考える力
- ・自分の学びを正しく振り返る力
- ・最後までねばり強く学習を進める力

人生100年時代のマルチステージモデル

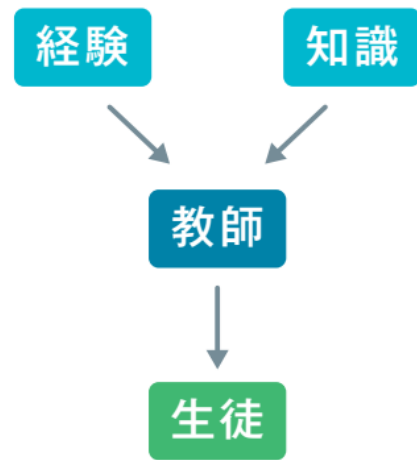


時代に合わせてスキルをアップデート、新しいスキルを身に付けることが必要

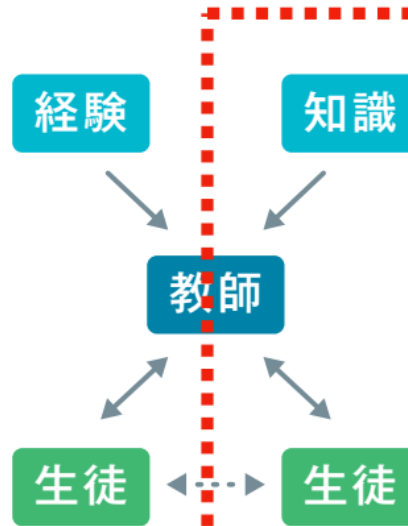
授業を考える際の7つのポイント

- 授業の屋台骨を**一斉指導**にしない
- 学習のゴールや計画等の**授業情報**を子どもたちと**共有**する
- **単元の値打ち（教師の願い）**を説明する
- **個別最適な学び**に取り組む時間を**十分（15分～20分）**確保する
- 子どもたちが**勝手に**学び始めるような**学習環境**を整備する
- 子どもたちの**自己選択、自己決定**の場面を必ず盛り込む
- **振り返り（学び方）**に取り組む時間を**確保**する

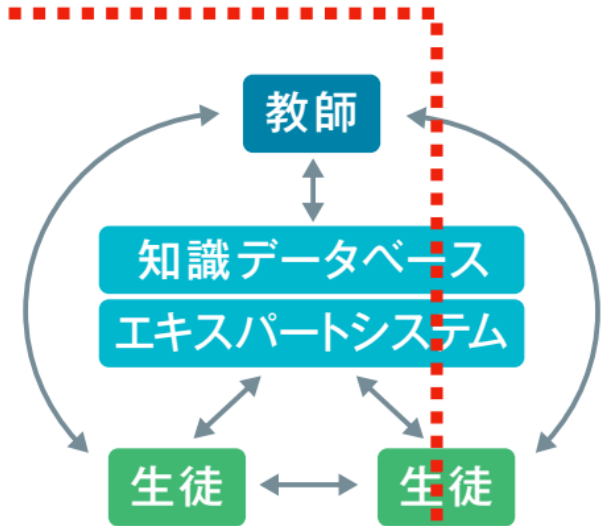
先を見据えたこのあたりの授業を多様に展開する



口頭継承パラダイム



現在のパラダイム



情報技術パラダイム

〔出典〕 Robert K. Branson 1990 Issues in the Design of Schooling : Changing the Paradigm. Educational Technology, Vol.30, No.4, 7-10.

訳出は奈須正裕（上智大学）の資料より（<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/51.html>）（2023年11月30日確認）

これからの学校教育

個別最適な学び



指導の個別化

知るべき知識、理解すべき内容、
会得すべき技能について
ICTも使って自分のペースで学ぶ

興味・関心に応じて**ICTも使って**
様々な教育資源や経験もふまえ
ながら探究する

学習の個性化

アップデート
授業観の更新が必要

～みんなdeHappyな学校を創ろう～

Happy もろふく



学校正門



ラーニング・リビング